

第5回「釧路川流域委員会」での意見に対する検討方針

区分	各委員の意見等	検討方針
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">グランドデザインについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 資料には湿原は自然林に囲まれているとあるが、ヘリから見ると、それほど豊かな自然環境が維持されているという感じではなく、広葉樹林は密度が薄く、人工林のカラマツ林が目立っていた。このイメージの違いは地域資源評価図に阿寒川流域も含まれていることから、評価範囲の違いによるものと思われる、この辺を厳密に評価すべきである。 • グランドデザインは基本的には良いと思うが、湿原自体は豊かな生態系が存在していても、周辺は必ずしも豊かな森林とは限らないので、表現を一部修正したほうがよい。第6回委員会以降、河川整備計画の策定に向けて、上・中・下流域ごとに、個別に具体的なものを加えていったほうが良い。 • 流域が一体となった川づくりは、漁業ばかりでなく上流の森林の保全も一緒に考えて行くことであり非常に良い。なお、漁業資源の表現としてはサケだけではなく、サケ・マス・シシャモとして欲しい。 • 自然は子供達の心を育てるので、幼児の段階から自然を体験させたい。農業開発が予想以上に進んでいるので、今後、グランドデザインを踏まえて、関係機関の連携が必要であると思う。農業の家畜糞尿については、有効活用等の表現に替えて欲しい。 • 川があって、そこに人間が住むという歴史の中で開発が進められてきたが、復元と保全で昔の環境に戻して本来の川の持つ力を取り戻すことは大事なことだと思う。農業の家畜糞尿が川に流れ込まないように、今後の河川整備計画で必要な対策が講じられるようにして欲しい。 • 源流部の屈斜路湖を含めて水質が汚染されており、防災面での歴史を経て今の川の姿となっている。今後、自然に戻す仕組みが必要であり、流域が一体となって、きれいな水づくりや河川整備に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 左記の意見に配慮し、資源評価資料の評価範囲を釧路川流域とし、資源評価資料を修正した。(資料 P3-2 から P3-4) • 左記の意見に配慮し、グランドデザイン資料の一部を修正するとともに、河川整備計画を検討していきたい。(資料 P3-2、P3-4) • 今後の資料とりまとめ等に当たっては、左記の事項に留意する。 • 左記の意見に配慮し、グランドデザイン資料の一部を修正した。(資料 P3-3) • 左記の意見に配慮し、今後、関係機関との連携を図りつつ、河川整備計画の中で検討していきたい。 • 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していきたい。